

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
 編集者：代表幹事 高橋 賢一
 連絡先：市民活動支援センター
 尾張旭市渋川町三丁目5番地7
 (渋川福祉センター内)
 TEL 0561-51-2878



▲海江の森池 5月風景
 ▼ 10月風景



2014/10/18

田んぼも森も川も遊が場であつたからそれら相互の関係ももちろん子供たちは説明されるまでもなく知つた。水は森から湧き出すのである。幾つかの森の中には小さな湧き水があり池の底で砂が踊るものを見ることができた。そこは子供たちには聖地であり、泥足で入つてはいけなところであつた。フキの葉で柄杓をつくり、上澄みの水をそとすくって飲んだ。叔に行くと、木の葉さらうの人が森にやってきました。子供たちも遊が半分、手伝い、木の葉の大きな山の中に潜りこりした。農家の人はトラックで何度も木の葉を運んでいき、堆肥にして畑にまくので、すべて森から注ぎ込める。子供の頃の思い出。

森の湧き水は
 子供たちの
 聖地



左側のところに竹の屋がある。十年たつた万博の思い出が入る。茶道ハウスがある。又、カニタ大学の学生が制作した「竹の茶室」壁も天井も丸窓の開いた板を使い、光の差を差し込む開放的。デザインも各が出入りする。お茶をたてる人の入りの戸が連動客が全員入って戸を開けると茶会が始まる仕組み。

▲ 篠田砂防池
 砂防えん堤で篠田川がせき止められてできた池です。上流部の水田跡地には広い湿地が形成され、湿地のまわりの草莽にはサトウキビやサツキキョウ、ヤナギ、ハンキトピアに湿生植物が注育しています。毎年四季の季節に森に散歩するの風景が変化するので森を見ていると人生そのものをこの家も風景には貴重な存在です。森の入口の番人小屋です。



2010/12/16

